

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	百貨店（営業担当）	・8月末には県内に口蹄疫の終息宣言が出される予定である。その後、市のプレミアム付き商品券の発売も予定されており、景気は回復する。	
	やや良くなる	商店街（代表者）	・今が非常に悪いので少しは良くなる。気候的にも観光シーズンとなり、人の動きが良くなる。	
		商店街（代表者）	・低下価格競争が続き、安くなった衣料品に消費者は慣れている。一方で良い物を買おうとする客は商店街を念入りに見て回っている様子である。今後、少しずつ良くなる。	
		商店街（代表者）	・宮崎県内の口蹄疫の非常事態宣言が7月27日で解除され、完全終息に向けてイベントが始まった状況である。これから復興に向け、各方面で良くなる。	
		商店街（代表者）	・猛暑続きのなか、購買客数の増加はないが、2年前の客単価に戻りつつあり、売上も微増している。近年はボーナスが支給されても財布のひもが固く、客は家計の先行きを不安がる様子がかがえたが、今年はボーナス時期の売行きがよく、客の購買意欲が少々上向きになっている。	
		百貨店（営業担当）	・将来に対する先行き不安感は払しょくされていないが、節約することに疲れた客がやや増えている。7月に入り既に秋物の動きが出ていることから、9月以降は少し持ち直す。	
		百貨店（営業企画担当）	・来客数が前年を上回るまではいかないが、3か月前に比べると減少幅が縮小しており、消費者の購買意欲は回復している。	
		百貨店（企画）	・今まで大きく下回って推移したことを勘案すれば、完全に良くなったとは判断できないものの、リーマンショックから2年経ち、売上高の前年比は今年よりは上回って推移する。	
		コンビニ（販売促進担当）	・夏休みということや今後企画するプレゼント企画が奏功し、好調に推移する。	
		家電量販店（総務担当）	・年末までの5か月間はエコポイント終了に向けての駆け込み需要が期待できる。	
		自動車備品販売店（従業員）	・アナログ放送が来年7月24日に終了することを受けて、関連商品の需要が高まる。	
		観光旅館組合（職員）	・これからの時期は観光シーズンになるので、例年通り良くなる。今より悪くなることはない。	
		観光ホテル（総務担当）	・9月までは厳しい状況が続くが、10月は宴会の予約が多く、現在よりは上向き。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・9月以降は大型宴席や学会の予約が多く、全館での売上上昇が見込める。	
		旅行代理店（業務担当）	・2か月後は当業界では需要拡大の時期であるが、予約状況をみても良い状況である。肌で感じるレベルでの景気回復が期待できる。	
		タクシー運転手	・口蹄疫による家畜の移動制限解除によって、夜の街も少しずつ人が増えている。人が昼も夜も動き出すようになれば景気は良くなる。	
		ゴルフ場（従業員）	・大雨や宮崎の口蹄疫の影響で客が少なかったが、8月後半から9、10月と予約状況は前年以上に良くなっているため、やや良い傾向にある。	
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・4月の診療報酬改訂から3か月が経過し、診療報酬の利用者負担増に伴う介護サービスの利用控えが懸念されたが、それも一段落している。	
		変わらない	商店街（代表者）	・地元で地域振興券が出たことにより、いくらか好転することを期待しているが、夏場はもともと売れない時期であるため、状況は変わらない。
			商店街（代表者）	・空き店舗であったスーパーに新しい店が入ったため、少しは良くなる。
商店街（代表者）	・3か月先となると9月は行楽の秋であるが、景気は不安定であり、商店街が良くなる期待はできない。			
商店街（代表者）	・将来的に良くなる理由が見当たらないため、商店街は、この悪い状況が続く。			
商店街（代表者）	・年金受給者や高齢者の社会保障等の先行き不安により、客の購買力の低下がみられる。			
一般小売店〔生花〕（経営者）	・生花ギフトは7～9月の暑い時期は避けられる傾向があり、今年も例年通り低調に推移する。10、11月くらいになれば多少は上向きになるが、今年は厳しい状態である。			

一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・暑い日が続き、厳しい状況ではあるが、低価格でも販売量を増やす必要がある。夏場は仕入れを控え、在庫商品を減らしていかざるを得ない。
百貨店（売場主任）	・先月同様、購買意欲を喚起する気配はなく、先行き不安定なので、客が消費へ積極的になる要素が見当たらない。
百貨店（営業担当）	・クレジット取扱シェアが増加しているものの、現金を手元に置く慎重な姿勢は維持されている。ギフトは送り先を慎重に選び、送り先を絞っている。また、セール待ちでの購買が多く、今後もこの状況が続く。
百貨店（営業担当）	・ボーナスの支給があっても、売上は大きく増加せず、消費者の購買意欲は依然として低いままである。しばらくは前年比マイナスで推移する。
百貨店（売場担当）	・衣料品の単価が下落した今の状況が常態化していく。可もなく不可もない状況である。前年の7月は梅雨が1か月間続いたが、今年は梅雨明けが早く売上を押し上げた。8月は若干下がるかもしれないが、ほぼ変わらない動きをする。
百貨店（営業企画担当）	・一部のエコ関連の自動車や太陽熱、電化製品は好調に動くが、エコ関連商品を取り扱っていない当社では厳しい状況が続く。
百貨店（業務担当）	・子ども手当の支給などにより、幾分期待していたが、需要増の兆しは感じられない。夏休みに入り、家計の中で事に関する出費は予算組みされても、物を購入する出費は抑えられる計画をもった客が多い。
スーパー（店長）	・気温が高く、飲料関係ではビール、衣料関係では肌着、婦人服の定価商品が売れており、売上を底上げしている。しかし、天候に影響されやすい状況で、まだまだ予断は許さない状況である。
スーパー（店長）	・来客数は前年比15%増と伸びているので、毎日の安さと売場の工夫をすれば、今後も伸びる要素はある。衣料品に関してはバーゲンのタイミングで前年並みの売上に戻る。
スーパー（店長）	・依然として消費者の先行き不安は払しょく出来ておらず、今の慎重な購買の動向が今後も続く。
スーパー（店長）	・単価の下落が続いている。価格に対する客の反応が以前に増して敏感になっている。今後も今の状況が続く。
スーパー（店長）	・ギフトの時期は前年並みで推移している。送り先を絞る客や品物を吟味する客が多く、販売個数は大きく変わらないが、単価は前年より下がっている。今後も安い物に集中する状況が出てくる。
スーパー（店長）	・長期天気予報で西日本地方は、平年より気温が高い予測が出ている。夏型商品の売行きが良くなる。消費者に合わせた商品構成の品ぞろえ、変化をすれば、現状維持が見込まれる。
スーパー（総務担当）	・猛暑の影響で飲料、特にビールや住居用品の暑さ対策関連商品等の売上が伸びているが、一過性のものである。この暑さが衣料品の売上回復にはつながらず、まだ生活必需品のみの購買傾向が続く。
スーパー（企画担当）	・大きく消費を底上げする見通しが無いので、このまま小売関係の消費動向も景気も変わらない。
スーパー（経理担当）	・前年は秋までが最悪の結果となっていたが、今年もその状況が続く。
スーパー（業務担当）	・小売業界ではある程度の可処分所得の上昇がないと、個人消費は伸びない。現在の客の消費動向をみると、それは望めそうもない。
コンビニ（エリア担当）	・宮崎の口蹄疫問題で地域の祭等イベントが中止となったこともあり、今後もその影響が続く。
コンビニ（エリア担当・店長）	・来客数はあまり変わらないが、天候次第で客単価や時間に依じての来客数が若干変わる。
衣料品専門店（店員）	・毎日接している客の様子から景気が上向きになりそうな気配は感じない。
衣料品専門店（取締役）	・例年通り3か月後の10月は涼しくなり、秋物衣料は動く。景気が良くなる状況はあまりないが、財布のひもが緩むような商品選び、企業努力で他店と差別化していくことが重要となる。似たような店が多いなかで、独自性を持ったやり方をすれば現状維持ができる。
家電量販店（店員）	・猛暑の影響でエアコンがかなり売れているが、少し猛暑の時期が遅かったのが残念である。テレビに関してはサッカーワールドカップも終わり、以前ほどの需要はない状況である。東京などの大都市では景気が良くなっているという話があるが、地方都市では景気回復感はない。

	家電量販店（店員）	・地上デジタル放送への移行に伴い、テレビの売上が伸びているが、売れ筋テレビの商品が小型化しており、前年に比べると単価は30～40%落ちている。まだまだ販売台数は伸びるが、売上はそこまで上がらず、現状と変わらない。
	住関連専門店（店長）	・企業レベルで考えると、景気は上向くが、一般家庭に反映されるのはまだまだ先である。客の様子をみても、上向く様子は見受けられない。
	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・前年と比べると変わらない。販売量は増えるものの、購入金額が若干減っている。新規の客は少し増えているので、それを加味すると前年比と同率かほぼ横ばいの状態となる。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・8、9月については新車購入補助金の制度の期限が近づいてくるため、車関係は駆け込み需要が見込めそうだが、子ども手当支給については不透明感が漂っており、今後、消費から貯蓄に回すような客の様子である。
	その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・販売金額の動きをみると、人の動きが前年並みであっても購買力は前年以下である。自分のためには消費しても、土産等のぜいたく品は人のための物で、それにお金は費やさない客が多い。
	高級レストラン（専務）	・人の動きもなく、売上も下がったままである。やがては良くなるかもしれないが、それまで店が維持できるのかという状態が続いている。
	高級レストラン（支配人）	・現在来客数は増えているが、一過性のものかもしれない。このまま大きな変化はない。
	一般レストラン（経営者）	・やはり口蹄疫の影響で売上が上がらない。政府や県によるバックアップの効果で、少しの売上は見込めるが、景気の底として完全に冷え込んでおり、この状況は10月も変わらない。
	スナック（経営者）	・依然として客の財布のひもは固く、この状態はしばらく続く。
	都市型ホテル（副支配人）	・旅行代理店からの予約は極端に減っているが、インターネットの予約は単価を下げれば入ってくる状態である。今後もこの状況が続く。
	旅行代理店（従業員）	・前年9月の大型連休の反動もあり、出足は鈍い。そのなかで海外旅行の予約が前年を大きく上回っている。
	タクシー運転手	・県内企業のボーナスの時期となるが、あまり明るい話が客から聞かれず、今後も良くなるはならない。また依然として客の財布のひもは固い。
	タクシー運転手	・2、3か月先はNHK大河ドラマの影響がまだ残っており、その影響でいくらか良い。
	通信会社（総務担当）	・景気が上向いていると報道されているが、当地における景気の回復感はなく、今後良くなっていくのかも不透明である。
	通信会社（企画担当）	・客が飽和状態であり、パイが大きくなる要素はなく、引き続き競争の激しい状態が続く。
	通信会社（営業担当）	・宮崎は全業種に口蹄疫の影響が大きく、すぐには回復せず、しばらくは低迷した状況が続く。
	テーマパーク（職員）	・口蹄疫問題は8月27日の最終的な終息宣言まで影響を受けそうである。秋以降のプランをどうするかも懸念材料となっている。
	ゴルフ場（支配人）	・9月末の夏季期間が終了するまでは来場者数は伸びない。来場しても日中を避け、涼しい時間帯が好まれるため、昼食の売上が伸びない。
	競輪場（職員）	・売上等などが上向く要因が見当たらない。
	美容室（経営者）	・例年2、3か月先の秋口は、非常に期待の持てる時期となる。その時のために今から何か手を打たなければいけないが、景気回復が見込まれず、厳しい状況が続く。一部報道等では、大手企業や輸出入関連企業は回復しているというが、小さな美容業界などの中小企業が回復するまで、本当の意味で景気回復はしない。
	美容室（店長）	・来客数が伸びず、客の話からも景気が良くなる様子はない。
	音楽教室	・今月は、先月の楽器展示会の影響でたまたま楽器が売れたが、来月からまたしばらく落ち着きそうなので変化ない。
	設計事務所（所長）	・われわれの仕事は3か月先位に結果ができるが、今手持ちの案件が非常に少ないため、今と変わらず良くない。
やや悪くなる	スーパー（経営者）	・政治や今後の景気が不安定なため、客の買い控え傾向が続く。
	衣料品専門店（経営者）	・呉服の業界は全体的に動きが悪い。

		衣料品専門店（店長）	・ 8月は毎年売上が見込めない月であるが、猛暑の影響もあり、更に良くない。
		乗用車販売店（従業員）	・ エコカー購入補助金制度が終わり、どれだけ落ち込むのか想像もつかない。
		乗用車販売店（販売担当）	・ 10月以降は政府のエコカー購入補助金制度がなくなり、通常の販売となる。基本的に購買意欲はリーマンショック以来、改善されていない。
		住関連専門店（経営者）	・ 来客数や売上がなかなか伸びず、同業者の話からも景気の回復は感じられない。
		高級レストラン（経営者）	・ 例年のことではあるが、8月の予約状況は悪い。法事関係の利用をホームページなどで促しているが、今一つ集客状況は芳しくない。知り合いで何組か法事を入れてもらったり、毎年行なっている大口の宴会が入ったりしているが、全体的に動きが鈍く、かなり厳しい。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・ 先行きが真っ暗である。いつ良くなるのか、32年続けてきた店も閉店を考えなければならないかと悩んでいる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・ 通常7～9月の夏場は一般宴会は減少するが、今年は9月が過去最低の予約状況である。現在、原因分析中である。
		タクシー運転手	・ 当地は観光が盛んな町ではないので、行楽シーズンはどうしても客が少なく、売上はあまり上がらない。今の厳しい状況が続く。
		通信会社（業務担当）	・ 8月は7月に引き続き夏季キャンペーンを開催しており、ある程度の販売は期待できるが、商品やサービスに目新しさがなく、新規販売、取換え共に先月より厳しい。
		理容室（経営者）	・ 年間のなかで例年12月の次に8月が忙しいが、8月以降は11月まで悪くなる。過去のデータをみても、良くなることは期待できない。また、来店回数のサイクルが伸びており、より悪くなる。
		美容室（経営者）	・ 9、10月はイベントもなく、寒くなるため、髪の毛をカットする客は少なくなる。今年は現状も悪いので、例年以上に景気は悪化する。
		美容室（店長）	・ オフィス街に立地しサラリーマンを対象としているが、周辺企業が駅側に会社を移転しており、来客数が厳しくなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	・ 消費者の買い控え傾向が続き、客単価は減少する。
		住宅販売会社（従業員）	・ 不動産業の仲介は、問い合わせ数、物件の動きが非常に停滞しており、今後の景気についてはやや悪くなる。原因として景気が悪く、不動産投資が消極的などが考えられる。
	悪くなる	一般小売店〔青果〕（店長）	・ この暑さで宮崎県内の野菜がほとんどなく、県外の野菜中心となり高値相場が続く。また、この暑さで需要も落ち込み、9、10月くらいまで厳しい状況となる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・ 10月1日にタバコの増税があり、タバコの買い控えが発生し、タバコの売上が大幅にダウンする。それに伴い、これまでタバコを買っていた客が著しく減るので、コンビニの来客数自体が著しく減り、深刻な売上減が予想される。
		衣料品専門店（店長）	・ 生活様式の変化、考え方の変化などにより、何が求められているか全く先が読めず、厳しい状況が続く。
		乗用車販売店（管理担当）	・ エコカー購入補助金制度が9月末で切れるため、駆け込み需要が発生する。受注生産は8月中旬まで、在庫車については9月中旬までに登録しないと間に合わない。10月以降の落ち込みは目に見えており、景気が悪くなる。前年に比べて半減する。
		乗用車販売店（総務担当）	・ エコカー補助金制度が9月末で終了する。新車の販売不振は目に見えている。今までが需要の先食いをしてきたので、当然の結果である。大変厳しい状況が目の前に迫っている。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		農林水産業（経営者）	・ 口蹄疫による家畜の移動制限の解除で人の動きが良くなっており、今夏はとりわけ暑いこともあり、焼き鳥などの居酒屋向けが大いに期待できる。加工向け商品も原料肉の不足が言われ始めており、動きは良くなる。
		食料品製造業（経営者）	・ 受注状況を見ると、忙しくなる見込みである。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・ 2、3か月先の焼物業界は例年動く時期であり、月末から先の受注が少しずつ入り始めている。
		建設業（社員）	・ 上半期終了時まで受注できる業者は、年度末までの工事量確保が可能である。利益率の良い仕事、悪い仕事の選別をしなければ、全体的な工事量の確保は可能である。

	金融業（営業）	・取引先の製造業は今後も大手からの安定した受注が見込まれている様子であり、先行きが見えなかったこれまでの状況から変化がある。受注する単価は低く、十分な利益が出る状況ではないが、先が見える安心感から総じて明るい。
	金融業（営業担当）	・取引先の中小企業全般に設備投資に関する投資情報は前年比で増加傾向にある。
	金融業（調査担当）	・取引先の設備投資の需要はみられないものの、取引先の倒産や信用コストの悪化はみられず、回復していく方向にある。
	不動産業（従業員）	・商業施設の売上がやや回復傾向にある。
変わらない	農林水産業（従業者）	・今、非常に景気が悪く、畜産物関係についても同様に数量的に良くない。景気が回復して末端消費者の購買意欲がわかないと今の状況が続く。
	家具製造業（従業員）	・今年の猛暑により一部潤う業界もあるが、家具業界は低迷したままである。車のエコカー購入補助金制度もあと少しで終了するため、その反動が再び景気を下げる要因になると懸念される。
	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・地図利用者数に変動がみられない。
	鉄鋼業（経営者）	・国内で建設需要が回復する兆しがみられず、特に地方においては公共事業の削減から需要の盛り上がりもない。今以上の需要減少ないが、緩やかなりともいつから回復基調になるのか、全く予測出来ない。このままの状態では、建設業界に關与する様々な業種で与信問題が取りざたされ、危機的な状況に至ることが危惧される。一刻も早い内需拡大政策の施行が必要である。
	一般機械器具製造業（経営者）	・リチウムイオンバッテリーや半導体に関連する設備及びこれらの部品加工については当分今の状況が続く。
	電気機械器具製造業（経営者）	・景気そのものは順調に推移してきたが、ここきてやや停滞気味である。夏枯れの一時的な現象かと思われるが、推移を十分注意して見守りたい。なお、景気そのものの動向はそんなに変化はない。
	電気機械器具製造業（経営者）	・受注量はある程度安定しているが、受注価格に問題がある。受注量が下がった場合、受注価格の下落に対応できるのが危惧される。受注量と受注価格をみて、工場の稼働率をどのように設定するかによって景況感の判断をするが、今後は現状と変わらない。
	輸送業（総務担当）	・預かっている商品の大半が国内向け商品である。ほとんど変化がなく、現在そのまま推移する。
	通信業（職員）	・社内全体としては厳しい状況が継続しているが、情報通信部門は大規模官庁件名の受注などがあり、年度内は順調なまま推移する。
	金融業（得意先担当）	・各取引先企業において、役員報酬を始め、人件費などの固定費削減により、何とか事業存続しているのが実情である。景気回復には時間を要する。
	金融業（営業職涉外係）	・米国の景気も回復が遅れており、円高が進行している。輸出産業を中心に収益悪化の原因となり得ることから、現状と比べ景気が良くなるとは言えない。
	広告代理店（従業員）	・新聞折込チラシの7月の受注枚数は前年比100.5%と、ここ3か月間変わらない状態が続いている。子ども手当の支給で子ども用品の消費が活発になるかと思われたが、特段の変化はない。現状維持がしばらく続き、我慢比べになっている。
	広告代理店（従業員）	・売上の前年比が上がったり、下がったりを繰り返し、安定しない。得意先でも広告の出稿が全くないところもある。景気が回復し、広告に予算が回るまでには時間がかかる。
	経営コンサルタント	・まだ景気は不安定であり、企業の取組姿勢もあまり積極的ではない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	・受注見込み案件数も変化がなく、取引先に将来の見通しを聞いても大きな変化はないという回答が多い。
	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	・景気が持ち直している動きがあるが、企業の設備は未だ過剰感があり、設備投資の回復には程遠い状況である。先行きは現状とほぼ変わらない。
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）
輸送用機械器具製造業（営業担当）		・エコカー購入補助金制度の終了の影響により、得意先の生産計画が減少する。

		建設業（従業員）	・見積案件は数多く出ているが、競合の数が多すぎて利益確保もままならない。また雇用情勢も大変厳しく、企業は採用を手控えている。先行き不透明なため、消費が抑えられており、総じて景気はまだ悪くなる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・春先から若干良くなってきているのは、自動車、電機などが多い。飲食は若干回復しつつあるが、その他の小売店は相変わらず厳しい状況が続いている。エコカー購入補助金制度が打ち切られることもあり、自動車販売は厳しくならざるを得ない。電機関係もエコポイント関係でどうなるのか、これがマイナスにふれると全般的な消費の落ち込みはかなり大きい。
悪くなる		繊維工業（営業担当）	・大企業から私たち町工場まで、まだまだ業界は縮小傾向である。中国でストライキが多いようであるが、日本に生産が戻れば雇用も増えて、景気が良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の話によれば2～3か月先に新規の金型受注はないと言う。修理やメンテナンスで食い繋ぐことになるが、そろそろ限界に近い。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・市町村の建設関係の予算が今後も削減され、発注量が減少することが予想される。このため、建設業や建設コンサルタントの業績悪化は今後も続く。失業者対策の緊急雇用事業についても今年度で終了するため、業績を改善する手立てを失うことになるため、景気は更に悪くなる。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・来年3月の九州新幹線全面開通に伴う博多駅周辺の再開発により、秋口から雇用の創出効果が出てくる。
		職業安定所（職員）	・離職による新規求職者が減り、求人数が増加しているため、在職者の動きが活発になっている。また、無業者の就職など雇用者数が増加傾向にある。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・来年始動の新規求人の話が多く、今年の回復は見込めない。
		人材派遣会社（社員）	・中元時期でさえ、注文が少ない状況なので、2、3か月後に増えることはほとんどないと、企業担当者の話を聞く。年末には期待したいが、何とも言えない。
		人材派遣会社（管理担当）	・円高の影響も出ており、先行きの人員調達に慎重になっている。
		新聞社〔求人広告〕	・製造業やサービス業の求人が増えれば、回復の兆しはみえてくるが現状そういった動きがない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・エコカー購入補助金制度が終了することなどから、景気は良くならない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・夏のボーナスの支給など製造業が回復したような報道があるが、取引先をみると、努力しても良くならない現状維持が精一杯の景気が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は前年とほぼ同数となっており、改善していない。今後の状況についても先行きは依然、不透明である。
		職業安定所（職員）	・産業別の新規求人数では、前年比で増加している業種がほとんどであり、減少した業種の減少幅も縮小している。今後も求人数の増加が見込まれる。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の増加など企業の採用意欲は増してきている面もあるが、エコカー購入補助金制度の終了や円高基調など不安定要素があることに加え、新規卒卒人の伸び悩みなどもあり、先行き不透明感はなかなか払しょくできない。
		民間職業紹介機関（支店長）	・回復しつつあるが、リーマンショック以前の状況にはほど遠い。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・年末までの採用計画もはっきりとした回答をもった企業が少ない。
		学校〔大学〕（就職担当者）	・人事担当者からは、秋採用の展開を予定しているとの話はあまり聞かれず、好転する要素がない。一部で公務員志望からの転向者や帰国留学生を対象とした母集団形成を考えているとの話が聞かれる。他の一般学生にとっては、低調なまま推移する。
やや悪くなる		人材派遣会社（社員）	・政府の緊急雇用対策については、保障費の上積みと職業訓練に対する補助がメインであるが、職業訓練を逆手にとって補助金目当てにスクールを作り、生徒をハローワーク前で勧誘し、無職者は訓練期間の保障が長期化するため、それを目当てに訓練所に申し込んでいるのが現状である。まさに公金がばらまかれている実態である。
		人材派遣会社（社員）	・8～9月は企業の動きもさほど活発ではないため、低調な動きが続く。

	職業安定所（所長）	・口蹄疫による家畜の移動・搬出制限が7月27日に解除されたが、観光業、小売業を中心に売上が半減しており、大変厳しい状況が続いている。また、それらへの不安感が雇用にも広がりつつある。
悪くなる	-	-